

混合交通を観察する
DOCUMENT EYE series—234

街を走る小学生の自転車利用者の行動を観察する



ある日の午後、気になる実際の交通状況を観察しました。



Q1

信号機のある交差点で左右の安全確認を行ってから横断した小学生の自転車利用者は何%だったのでしょうか？

- 観察場所／東京都足立区竹の塚5丁目付近
- 観察日／10月29日(木曜日)
- 天候／晴れ
- 観察時間／16:00～18:00
- 観察者／4名

こんな事故が起きています

小学生の自転車事故は
出会い頭事故の割合が高い

平成19年の自転車乗用中の交通事故件数を年齢層別・事故類型別に見ると、7～12歳の子どものみでは、出会い頭事故が65.1%を占め最も多く、ついで車両相互その他(10.4%)、転倒(8.1%)の順に多い。

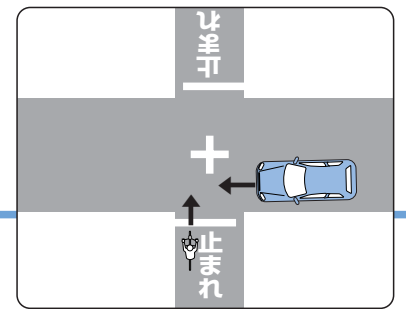
((財)交通事故総合分析センター資料)



横断時に左右確認を行わない子どもが多かった

Q2

一時停止のある交差点を通行する自転車と、優先道路を走るクルマが交差点内で接近するところを目撃!! 事故を防ぐにはどうすればよいのでしょうか？



ほとんどの子どもがヘルメットを着用していなかった

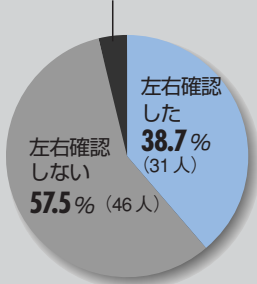
解答・解説

実際の観察から

Q1の解答：38.7%

●信号機のある交差点での小学生の左右確認状況(80人中)

信号無視 3.8% (3人)



	左右確認した	左右確認しない	信号無視	小計
低学年(1・2年)	0	6	0	6
中学年(3・4年)	19	16	0	35
高学年(5・6年)	12	24	3	39
小計	31 (38.7%)	46 (57.5%)	3 (3.8%)	80

※低・中・高学年の判断は観察者の見解による

- 観察中、信号機のある交差点を横断した小学生の自転車利用者は80人。そのうち、左右確認を行ったのは31人(38.7%)だった。信号無視は3人(3.8%)いた。
- 低学年は、青信号のみを確認したり、一緒に走行する大人につられて横断を開始する例が目立った。
- 高学年は、友達と集団で自転車走行する例も増え、自分で左右確認せずに友達を追いかけて横断する様子も見られた。
- その他、小学生の自転車利用者116人中、ヘルメット非着用が113人(97.4%)でほとんどだった。
- 歩車道が分離されていない道路を通行した34人中、逆走(右側通行)が14人(41.2%)、並進が4人(11.8%)いた。
- 一時停止場所を通過した小学生の自転車利用者15人中、一時停止したのは2人(13.3%)だった。
- 日没後の17時以降の観察では、57人中19人(33.3%)が無灯火だった。
- スピードの出しすぎは、中学生以上の他の年齢層に目立った。携帯電話の使用は小学生に1人見られたが、大人に比べ少なかった。アイスを食べたり、雑誌を読みながら片手で走行する小学生もいた。
- 保護者の自転車に同乗している子ども144人中、ヘルメット非着用が134人(93.0%)だった。子どもを同乗させている親や、子どもと一緒に出かけている親の中にも無灯火、並進、逆走、一時停止をしないなどの違反が観察された。



同乗する子どもにヘルメットを着用させず、逆走する自転車

Q2の解答：

一時停止場所では、停止線手前でしっかり止まって安全確認を行うことが大切

【解説】

優先道路を走るクルマは、自転車が停止するものと思込み、そのまま進行する可能性が高い。また、ドライバーが自転車利用者の存在を見落としてしまう危険がある。



停止線で一時停止せずに走行する自転車

ここがポイント

- 自転車は、停止線の手前で必ず停止し、クルマや自転車、歩者がきていないか左右の安全を確認してから走行する。
- 自転車は、クルマから見落とされてしまいやすいことを意識して、注意して走行することが大切。
- ドライバーは、自転車利用者が停止線で止まらずにそのまま進行してくる可能性もあるので、自転車の動きに注意が必要。

ワンポイント DATA

自転車利用者は信号、一時停止を無視することが多い

信号あるいは一時停止標識のある場所で事故にあった自動車(四輪車、二輪車の合計)、自転車運転者の中で、信号、一時停止標識を無視する率は自転車の運転者が自動車運転者の約2倍と高くなっている。
(財)交通事故総合分析センター資料

●信号、一時停止無視率(H5-H13年ミクロ)

